

お客様各位

この度、競技・ハンディキャップ委員会において下記の通り、ローカルルールの改正を2022年5月1日より実施いたします。ご不明な点がございましたらお気軽にお近くの職員にお尋ね下さいませ。

支配人

(現 行)	(改 正)
① アウトバンズ(OB)の境界は白杭にて標示する。	① アウトオブバンズ(OB)の境界は白杭にて標示する。
② 修理地の区域は青杭、または白線で標示する。	② 修理地は、青杭又は白線をもってその境界を標示する。
③ 球が黄杭を越えた場合、1罰打付加する。超えたと思われる地点から2クラブレンジス以内でピンに近づかない箇所にドロップする。尚、ドロップした球は2クラブレンジス内に止まらなければならない。	③ 球が黄(黒のハチマキ)杭を越えた場合、1打罰のもとに最後に横切った地点を基点に2クラブレンジス内でピンに近づかない箇所にドロップしなければならない。
④ レッドペナルティエリアの境界は赤杭をもってその限界を標示する。池及びクリークを形成する石垣はコースと不可分の構築物とする。	④ コース内のレッドペナルティエリアの境界は赤杭または赤線をもって標示する。池及びクリークを形成する石垣は、コースと不可分の構築物とする。
⑤ 次の場合は特設ティより前進4打でプレーすることができる。 1.NO5ホールで第1打がOBの場合 2.NO6ホールで第1打がOBの場合 3.NO7ホールで第1打がOBの場合 4.NO9ホールで第1打がOBの場合 5.NO11ホールで第1打が手前の指定された区域の池に入った場合 6.NO12ホールで第1打が*RPAに入った場合 7.NO14ホールで第1打が*RPAに入った場合 8.NO15ホールで第1打が*RPAに入った場合 *RPA=レッドペナルティエリア	⑤ 第1打がOBの場合は前方特設ティより第4打としてプレーすることができる。(5番、6番、7番、9番ホール)
⑥ NO9ホールで球がグリーン周辺のレッドペナルティエリアに入った場合、特設ティより1打罰付加してプレーすることができる。	⑥ レッドペナルティエリアの中に球がある場合、プレーヤーは次の処置のいずれかをとることができる。(ドロップエリアがあるホールに適用) ・規則17に基づく処置 ・追加の選択肢として1打罰のもとに元の球か別の球を指定されたドロップゾーンにドロップする。このドロップゾーンは規則14-3に基づく救済エリアである。ドロップゾーンを示すティマークはドロップエリア表示板とする。 現行の⑤ 5、6、7、8、⑥、⑦、⑧が上記のルールが適用される
⑦ NO13ホールで球がレッドペナルティエリアに入った場合、特設ティより1罰打付加してプレーすることができる。	但し、⑧の18番ホールに関しては100YDS以内から入った場合にのみ前方のドロップエリアから1打罰のもとに救済を受けることができる。
⑧ NO18ホールでグリーンまで100Y以内から打った球がレッドペナルティエリアに入った場合、特設ティより1罰打付加してプレーすることができる。	ティーイングエリアから右側のクリークに入った球はゼネラルルールに基づき処置を行うものとする。
⑨ バンカー内の排水用配管がスイングの妨げになる場合は、無罰でピンに近づかない箇所から1レンジス以内にプレースの救済を受けることができる。	⑨ バンカー内の排水用配管(動かせない障害物)がスイングの妨げになる場合は無罰でピンに近づかない箇所から1レンジス以内にプレースの救済を受けることができる。
⑩ スプリンクラーヘッドがグリーンから2クラブレンジス以内の所にある障害に対して、球がそのスプリンクラーヘッドから2クラブレンジス以内の所にある場合に限り、無罰でピンに近づかない箇所から1クラブレンジスにドロップの救済を受けることができる。	⑩ ※ローカルルールから削除する